



# 飯綱町における取組について

1. 地域計画について
2. 協同組合いいコネワークスについて

飯綱町PRキャラクター  
「みつどん」



# 飯綱町の農業の現状

## ◆農家数等の推移 ※農林業センサス

項目	2005	2010	2015	2020
農家数	1,652	1,565	1,406	1,242
うち自給的農家数	445	480	461	469
うち販売農家数	1,207	1,085	945	773
基幹的農業従事者数	1,568	1,494	1,430	1,101
うち65歳以上の者数	980	1,013	1,045	871
うち65歳以上の割合	62.5%	67.8%	73.1%	79.1%

## ◆農業の課題

- ・農業従事者の減少、高齢化
- ・栽培面積、収穫量の減少

## ◆主要な農作物の各推移 ※農林業センサス、作物統計調査

項目	2005	2010	2015	2020
リンゴ	栽培経営体数	793	640	615
	栽培面積 (ha)	433	390	378
	収穫量 (t)	10,900	10,041	10,893
もも	栽培経営体数	120	95	91
	栽培面積 (ha)	27	22	22
	収穫量 (t)	815	470	444
ぶどう	栽培経営体数	18	13	13
	栽培面積 (ha)	2	4	4
	収穫量 (t)	※120	48	57
米	作付経営体数	865	764	709
	作付面積 (ha)	386	403	369
	収穫量 (t)	3,530	3,300	3,060



# 飯綱町の地域計画

飯綱町地域計画	
	普光寺地区
	芋川地区
	倉井地区
	赤東地区
	中郷地区
	高岡地区

## 1. 地域計画策定の経過

R5.11

地域計画策定アンケート実施

対象：耕作者、所有者 2,200戸

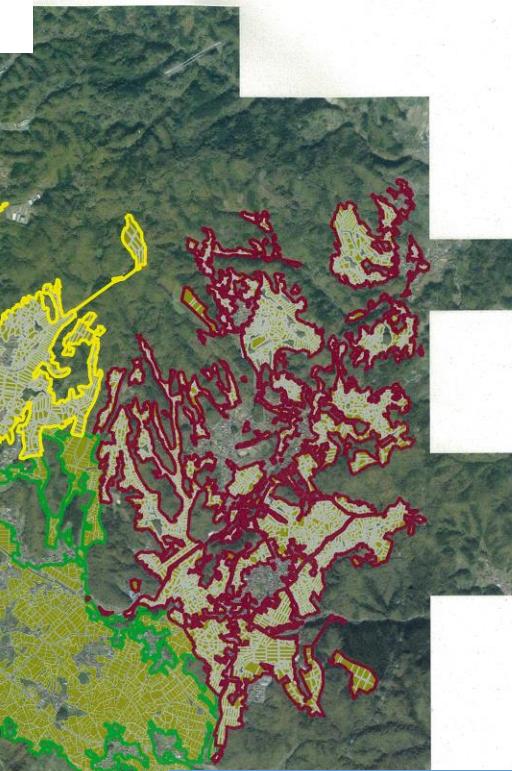
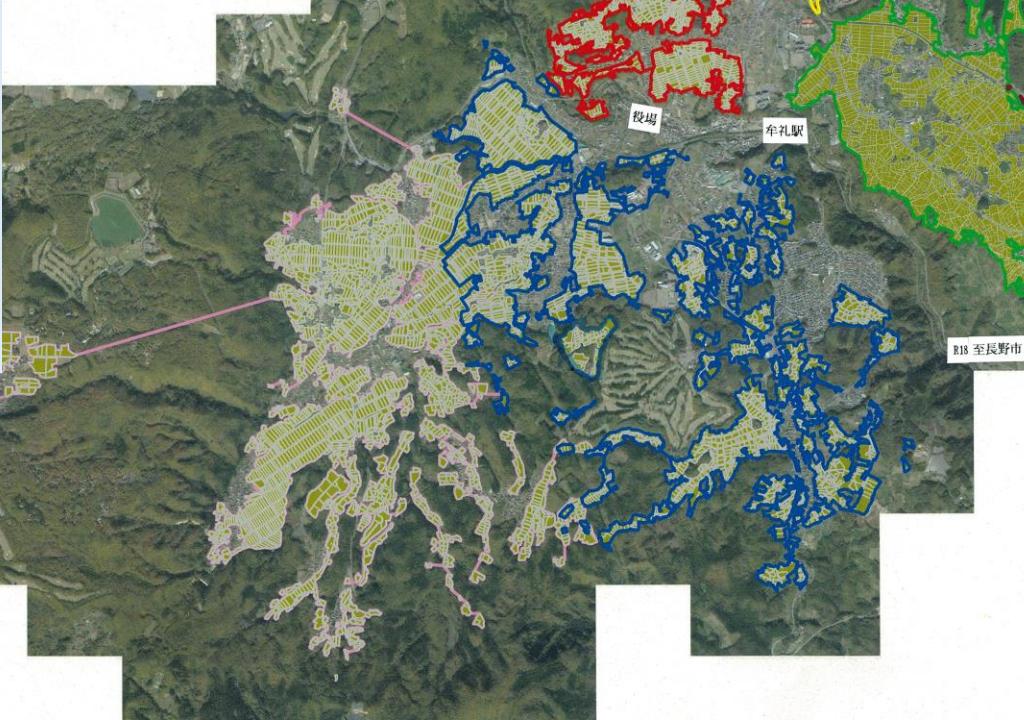
回答率：54.5%

R6.8～10

22地区で説明会

R7.3.31

地域計画策定



## 2. 今後の取組

- ・ 実装的な計画及び取組へ  
2集落を選定  
農業を担う受け皿的な営農組織
- ・ その他  
農地のマッチング（情報提供）  
援農組織への支援（R8～）  
働き手育成（R8～）



協同組合

いいコネ  
ワークス

# 協同組合 いいコネワークス について

発表者：飯綱町企画課地域振興課（地域おこし協力隊）  
奥村 夏生



## 概要

「日本一のりんごの町」を目指す  
飯綱町ってどんなところ？

日本のほぼ真ん中にある、高い山々に囲まれた長野県。

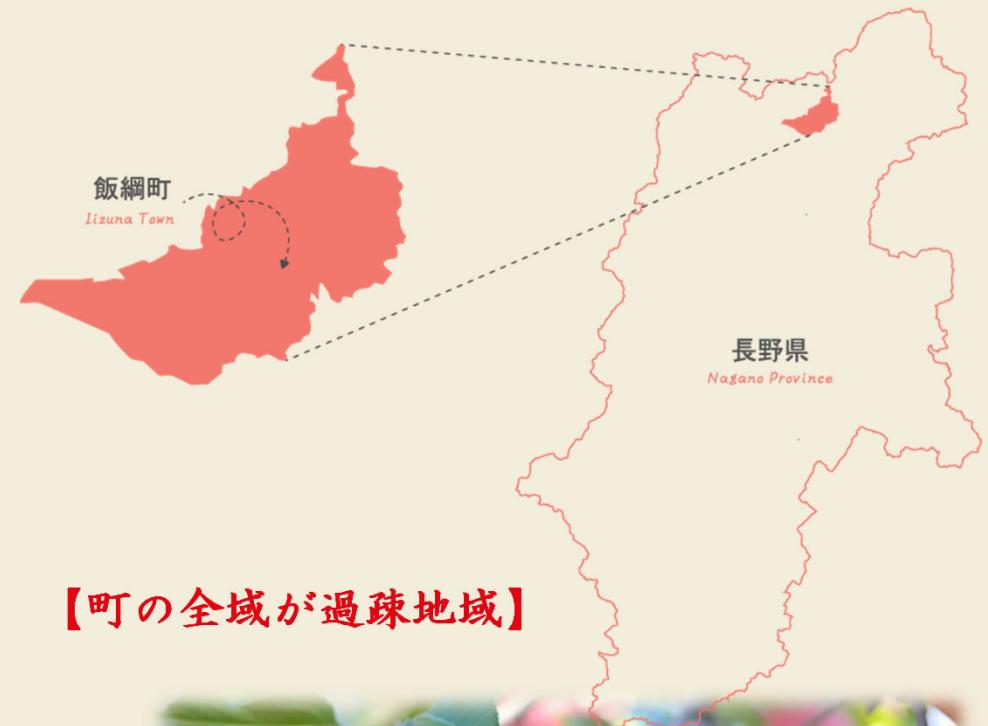
その長野県の県庁所在地である長野市から北へ車で少し走ると見えてくる美しい田園風景。そこが飯綱町です。人口は約10,000人の小さなまち。農業が盛んで、雪が降ります。

東京からの移動は電車で約2時間。車でも約3時間と日帰りも可能なちょうどいい田舎町。

⇒ 中山間地域の自治体

【主要産業】農業（りんご、お米）

全国のりんごの100個に1個は飯綱町産  
50種類以上のりんごがある



【町の全域が過疎地域】



# 概要

## ◆町の現状と組合の方向性

人口減少、少子高齢化により町内の生産年齢人口が減少しており、農業現場をはじめとした町内の様々な産業で労働者が不足している。

一方で、ある程度の所得を得ながら、自然豊かな地方で暮らしたいというニーズが一定数ある状況にある。

町内の農業者、企業、町など様々な人が連携することで、地域の課題を逆にチャンスに変えていく。

町内の農業者と企業が組合を組織し、移住者や地域の若者を組合の職員として迎え入れ、仕事をとおして、地域人材を育て、地域の活性化を図っていく。



生活保障を得ながら農業をしたい

給料はあまり多くなくとも  
田舎で人間らしい暮らしをしたい

豊かな田舎で農ある暮らしをした  
い



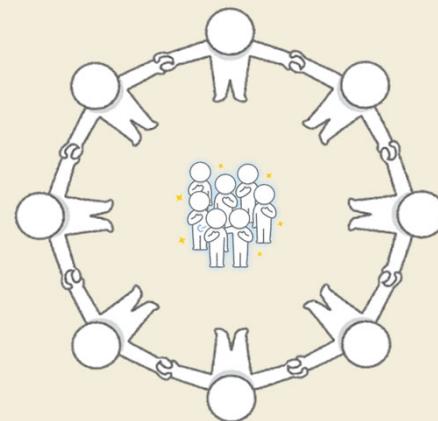
様々な人が  
連携することで  
課題をチャンスに！



急激な人口減少は大きな課題

農業現場での働き手の高齢化が深刻

年間を通して雇用、ある程度の給料が  
ないと働き手が集まらない



町内事業者が手を結び 人を育て 地域を元気にしていく

## 概要

長野県飯綱町で暮らしと仕事を組み合わせ  
多様なライフスタイルを実現する  
「マルチワーク（多業・複業）」という働き方



いいコネ  
ワーカス



Location: 車礼、よこ亭

「マルチワーク」とは1つの仕事のみに従事するのではなく、同時に複数の仕事にたずさわる働き方。私たち「協同組合いいコネワークス」は、長野県飯綱町ならではの仕事と暮らしをあなたの好きな時間と収入に合わせてご提案し、多様なニーズに合わせた「ちょうどいい」生き方ができるようにサポートします。

## ちょうどいいづな

飯綱町（いいづなまち）は、長野県北部「北信濃」に位置し東京から新幹線で約2時間という好アクセスで、田舎でありながら、利便性もある地域です。そんな「ちょうどいい」まちあなたも暮らしてみませんか。

## 概要

# 協同組合 いいコネワークス



いいコネ  
ワークス



■R7年 入社式時の集合写真

【形容詞】

いい



コネ

【意味】

「よい」のくだけた言いかた。

【込められた意味】

・飯綱町（いいづな）：の頭文字

・飯綱町は【ちょうどいい】まちをスローガンに掲げている。

【意味】

コネクションより  
つながり、関係、関連性

・そこからよい関係性が生まれてほしいとの願い

・町内の廃校利活用施設の愛称も「いいコネ」である。

名称	協同組合 いいコネワークス
構成員	職員（マルチワーカー）：5人 事務局員：3名（事務局長、事務員：2）
組合設立目的	特定地域づくり事業を活用して柔軟な働き方ができる地域をつくり、多様な人を迎えて育て、担い手不足の解消や新事業の創出を図ることで、地域農業、地域経済、地域社会の維持と活性化を目指す。
事務局	389-1203 長野県上水内郡飯綱町 大字赤塩2489番地 いいコネEAST 306室
略歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R7年2月 事業協同組合創立総会</li> <li>・R7年6月末 特定地域づくり事業協同組合認定（県） 労働者派遣事業届出受理番号の付与（労働局）</li> <li>・R7年 7月7日 入社式 翌日組合運営開始</li> </ul>
SNS・メディア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いいコネワークスHP 【 <a href="https://iicone-works.com/">https://iicone-works.com/</a> ]</li> </ul>



# 概要

## 特定地域づくり事業協同組合制度について

本制度は、「地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律」が根拠法となる。法の目的は、「地域づくり人材が安心して活躍できる環境を整備することで、地域人材を確保し、その人材の活躍によって、地域の活性化につなげる」というもの。特定地域づくり事業協同組合は、県知事が認定。10年更新制である。組合は長野労働局に届出をすることで、労働者派遣法による労働者派遣事業を行うことができる。事業協同組合の職員を派遣できる事業者は、基本的には組合員。組合員になれる事業者は、中小企業等協同組合法第8条に規定される小規模事業者となる。

### LINK

特定地域づくり事業協同組合制度【総務省HP】

[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/tokutei\\_chiiki-dukuri-jigyou.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/tokutei_chiiki-dukuri-jigyou.html)

## SDGsとの関連性

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

8 働きがいも  
経済成長も



11 住み続けられる  
まちづくりを



8-3 働きがいのある人間らしい仕事を増やしたり、会社を始めたり、新しいことを始めたたりすることを助ける政策をすすめる。特に、中小規模の会社の設立や成長を応援する。

11-a 国や地域の開発の計画を強化して、都市部とそのまわりの地域と農村部とが、経済的、社会的、環境的にうまくつながりあうことを支援する。

8-5 2030年までに、若い人たちや障害がある人たち、男性も女性も、働きがいのある人間らしい仕事をできるようにする。そして、同じ仕事に対しては、同じだけの給料が支払われるようとする。

11-3 2030年までに、だれも取り残さない持続可能なまちづくりをすすめる。すべての国で、だれもが参加できる形で持続可能なまちづくりを計画し実行できるような能力を高める。

8-9 2030年までに、地方の文化や產品を広め、働く場所をつくりだす持続可能な観光業を、政策をつくり、実施していく。

17 パートナーシップで  
目標を達成しよう



17-17 さまざまなパートナーシップの経験などをもとにして、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップをすすめる。

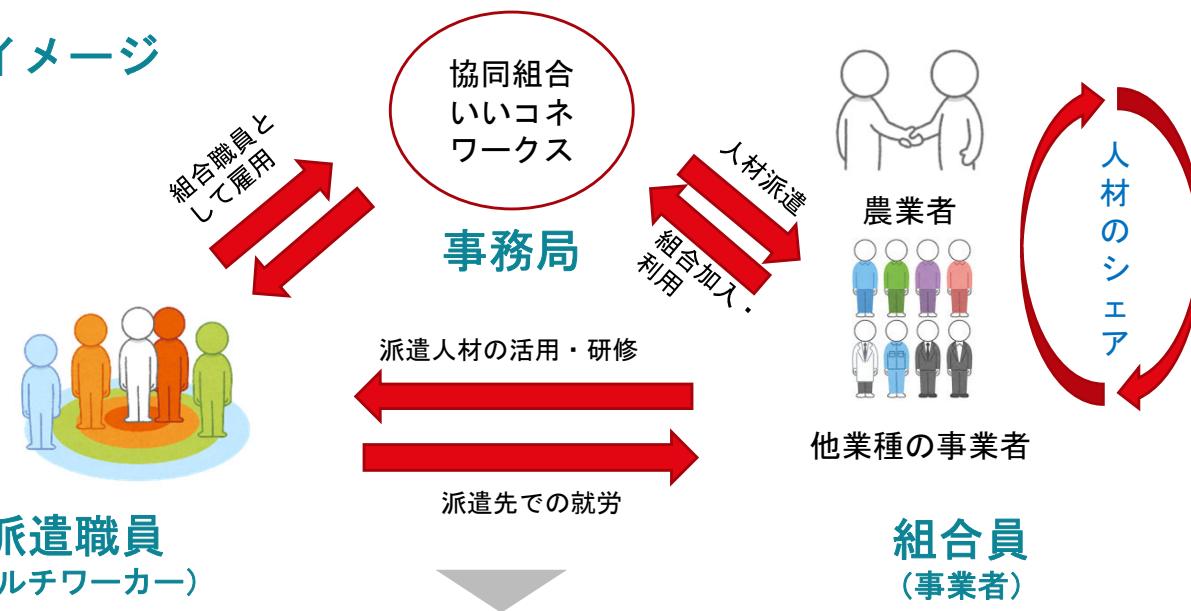
## ■ 組合実施事業

法に基づく特定地域づくり事業としての労働者派遣事業

### 組合設立目的

特定地域づくり事業を活用して柔軟な働き方ができる地域をつくり、多様な人を迎える育て、**担い手不足の解消や新事業の創出**を図ることで、**地域農業、地域経済、地域社会の維持と活性化**を目指す。

### 労働者派遣事業イメージ



組合の健全運営と、目的達成の為には派遣職員・事務局・組合員の  
【三方よし】の関係性が重要

# 事業説明

## ■ 派遣職員（マルチワーカーの確保）

**課題** 人手不足などの地域課題、事業者のニーズに重きを置き過ぎると、そもそも職員（ワーカー）が集まらない。

**仮定** プラスアルファの働きがい、キャリアアップ、本町でしか体験できない暮らしぶりを提案し、ターゲット層への訴求力を上げる。結果として、地域課題の解決、地域人材の確保につながるようにしていく。

**解決策** まずは飯綱町を選んでもらえるような仕組みづくり！！



ターゲットペルソナの設定

給料だけではない  
豊かな田舎の暮らしを求める  
若い人たちの希望にこたえていく

# 事業説明

## ■ 関係各所のメリットの整理

### 組合職員が組合で働く魅力

- ・地方の生活と仕事を楽しめる、理想的な地方移住ができる。
- ・新規就農は強い思いが必要。組合職員となり、農業者に派遣されることで、安定した生活をしながら、農業という仕事に就くことができる。
- ・様々な仕事を経験し、色々なスキルが身につく（キャリアアップ）とともに、自分に合った仕事を見つけることができる。
- ・組合での仕事は週4日勤務が選択できるため、自分のやりたい自営事業と兼務できる。
- ・マルチワーカーとして働くことで、地域内に人間関係を作ることができ、組合卒業後の町内の就農、就職、創業につながる。

### 地域事業者が組合に加入する魅力

- ・通年雇用が難しい農業者、観光事業者などが、繁忙期のみ職員を確保できる。社保・雇用保険等の事業主負担が不要。
- ・採用面接や給与計算などの人事業務が不要。
- ・組合派遣職員は、通常のバイトとは異なり、継続性があるため、仕事をとおして経験値（キャリア）を積むことができる。よって、農業機械オペレーターなど、専門性の高い仕事を任せることができる。
- ・既存のスポット派遣よりも派遣者の顔がわかり安心感がある。また高品質な業務（サービス）が可能になる。
- ・職員の働きぶりを見ることで、事業者が優秀な人材を雇用できる機会が生まれる。

## ■ 多様なライフスタイルとは？

### 課題

従来の働き方は「日本の雇用慣行」：終身雇用、年功序列、企業別労働組合  
⇒会社に長く勤めることで安定した生活が保証される。  
中山間地域などに代表される地方自治体では、そもそも雇用先のチョイスが少ない。

→ 選択肢の少なさは、選べるライフスタイルの多様性の幅に直結する。

経済状況の変化や少子高齢化（労働人口減少）、働き方改革により、成果主義を取り入れたジョブ型雇用への関心が高まるなど、特に都市部では雇用に対する認識は変化しつつある。

→ 地方都市における働き方の多様性に対する課題感。

### 働き方の多様性

#### ①就業形態の多様性

- 正社員（週5日制、週4日制）
- 個人事業主・副業/兼業可能  
⇒半農半Xなど多様なライフスタイルに対応

#### ②勤務業種の多様性

- オフィス勤務、サービス業、農作業等の選択肢  
⇒研修・資格補助などの拡充

#### ③勤務時間の多様性

- フルタイム／短時間勤務  
⇒ライフステージや個人の事情に合わせた働き方が可能。



# 事業説明

## ■ 仕事及び派遣イメージ

町の基幹産業は農業で、特に高品質なりんごを生産する地として知られ、日本で流通する100個に1個は、飯綱町で栽培されたりんごです。グリーンシーズンの仕事は農業以外にも、りんごのお酒のシードル工場や、ゴルフリゾートやキャンプ場のレジャー施設、冬季は食品加工工場、スキーリゾート場や温浴施設など多岐に渡る職種がある。

季節	業務イメージ
春	農業（田植え、りんご花摘み・摘果）、介護・福祉
夏	農業（桃収穫、りんご葉摘み・玉回し・収穫、トマト収穫）、観光（温泉、ゴルフ場、キャンプ場）、宿泊業（合宿）、介護・福祉
秋	農業（稻刈り、りんご葉摘み・玉回し・収穫、ぶどう収穫）、農産加工（ジュース・ワイン・シードル生産）、ふるさと納税事務、介護・福祉
冬	観光（スキー場）、宿泊業、農産加工（ジュース・ワイン・シードル生産）、介護・福祉

## → 派遣職員の定着・キャリアアップを重視し、期間派遣を推進。

\* 職員派遣の期間は一事業者1か月以上を目安にする。（職員のキャリア形成を考えれば、\*一の派遣先における一の派遣労働者の労働時間の割合が0.8を超えてはならない。



# 事業説明

## ■ 幅広い分野の組合加入事業者

NO.	事業者名	業種
1	有限会社飯綱町ふるさと振興公社	農業、販売業
2	有限会社アップルファームさみず	農業
3	株式会社カンマッセいいづな	まちづくり会社、施設管理
4	日成観光株式会社	サービス業
5	株式会社えがお	観光・サービス業
6	株式会社ツチクラ住建	工務店
7	一般社団法人飯綱町人材センター	農業
8	株式会社みみずや	農業
9	北信五岳シードルリー株式会社	加工業
10	社会福祉法人飯綱町社会福祉協議会	福祉
11	小中学生のための学び舎・長野みんなの学校	教育業
12	相澤農園	農業
13	外谷 文一	農業
14	若林 清喜	農業

### 補足

\* 運営開始時は11事業者。うち上から4事業者が発起人となっている。

## ■ 組合における派遣事業

### ① 派遣利用料

最低賃金に事務費2%、消費税10%を加算し算出

$$998\text{円} \text{ (2024最低賃金)} \times 1.02 \times 1.1 = 1,119\text{円}$$

派遣利用料については援農組織の利用料を基本に考える

### ② 職員派遣

基本は組合員への派遣

組合員以外への派遣は組合員に派遣した時間の20%まで

補足

総労働時間250時間 員外派遣時間50時間の場合、組合員への派遣は200時間になる。よって、員外への派遣は $50\text{時間} \div 200\text{時間} = 25\%$ になり、20%を超え法令違反になる

### ■派遣事業の関係性図



## 職員給与・手当等

給与・手当等	金額	備考
給与月額	200,000円	
賞与年支給額	200,000円	年2回（0.5ヶ月+0.5ヶ月=計1ヶ月）
通勤手当（月額）	10,000円	町職員通勤手当を準用。ただし、上限1万円
時間外労働手当 休日労働手当 深夜労働手当	あり	労働基準法に基づき算出
昇給	あり	勤務成績等により毎年4月に実施
特殊勤務手当	あり	農業機械オペレーターなど特殊勤務は、別途手当支給
年休： 105日		
社会保険	健康保険・厚生年金保険・雇用保険・労災保険加入	

◆町内の他の就労機会との待遇の調整の重要性 →採用に直結する課題

◎特定地域づくり事業協同組合派遣職員

◎地域おこし協力隊員

基本給（案）	年収・手当（案）	備考	基本給	年収・手当	備考
(採用年)  月額： 200,000円	260万円～272万円/年 賞与年2回（計1ヶ月）、 通勤手当、昇給制度有 法定福利費（事業主負 担）：41万6千円 <u>実質支出額：313万6千円</u>	健康保険、厚生年金 保険、雇用保険、労 災保険加入 無期雇用	月額： 266,000円	319万2千円/年	任期：3年

# 今後の展望

## ■ 職員採用の方針

- ・初年度の採用職員は5名。採用の第1フェーズの初期メンバーは自治体と関係の高い関係人口より選出した。
- ・現在、採用は第2フェーズに移り積極的に地域外の人材の採用活動に取り組んでいる。
  - ⇒移住交流施設での交流会開催
  - ⇒ウェブ媒体での採用告知

## ■ 採用派遣職員のタイプ<sup>①</sup>



### マルチ型ワーカー

農業、観光業、飲食業など様々な事業所で多様な業務を担う。

いろいろな仕事をしながら、キャリアアップを図る。

#### 【例】

様々な仕事を経験したうえで、自分にあった職を見つけ、町内事業所への就職、就農、創業につなげる。

### ○組合の派遣職員（ワーカー）の採用イメージ

#### 第1フェーズ

##### 地域内人材の採用

地域おこし協力隊OB、地域の若者などを組合が採用。地域外への人口流出を防止する。

#### 第2フェーズ

##### 地域外人材の採用

若い移住者を組合が採用。新しい人材を地域内事業者に派遣することで、地域経済の活性化、地域力の維持を図る。  
外国人材の活用も研究。

地域内人材から地域外人材へのシフト



### スキル型ワーカー

高い技術、能力を持つ職員を雇用し、派遣された事業所でスキルを生かした業務を担う。

#### 【例】

DXに強い職員を組合が雇用し、組合員である事業所へ派遣することで、事業所のDX化を進め、経営の強化を図る

# 今後の展望

## ■ 農業研修・体験事業運営（次年度以降）

### A) 地域の「農業研修」の機会拡充

組合職員だけでなく、地域外から訪れる参加者に対しりんご栽培を中心とした地域農業への理解を深めてもらい、関係人口の創出将来の援農人材の育成移住就農や副業参画の入口形成につなげることを目的とする。

### B) 関係人口に向けた「体験プログラム」

地域外人材が、町やりんご産業に関わり始める最初のステップとしての想定。継続的にまちに関わりを持ち関係性を育っていく。

- 対象者：
- ・農業体験に参加した来訪者
  - ・都市部の副業・二拠点居住希望者
  - ・農業や地域づくりに関心のある学生
  - ・将来的に援農や就農を検討する層 等々



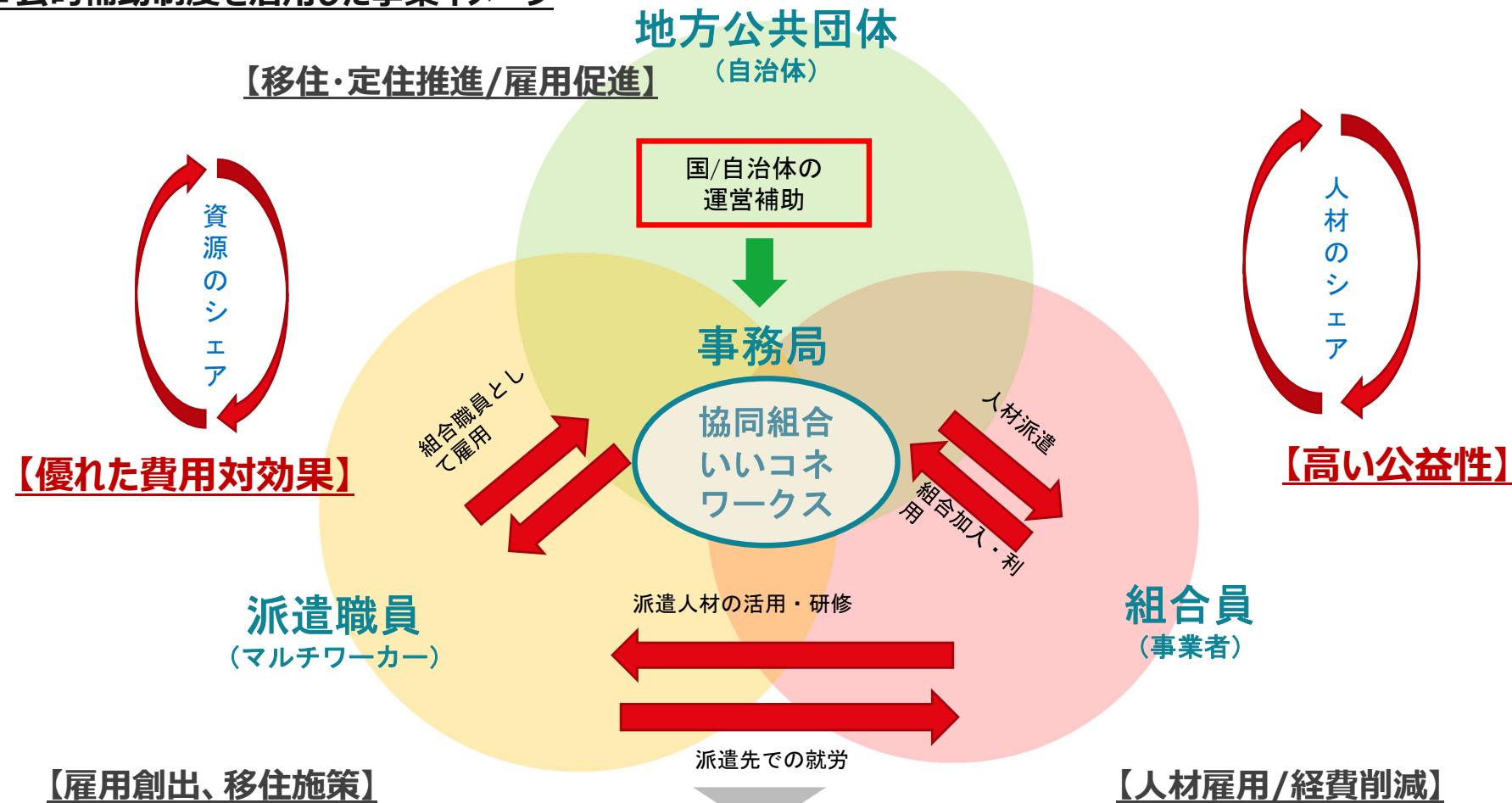
## ■ 各援農組織の統合

地域では、これまで地域内で様々な援農の仕組みが存在しており、それらの援農機能の円滑化と、運営の効率化を目的に、組合が「地域の援農プラットフォーム」になっていく。

- ・雇用・労務管理の統合⇒人材募集窓口の一本化
- ・派遣調整の統一
- ・研修・安全教育の共通化
- ・繁忙期派遣の計画化
- ・継続的な担い手育成

# まとめ

## ■公的補助制度を活用した事業イメージ



公的補助制度を活用し地域の事業者を含む関係各所が繋がることで  
地域課題を解決する官民連携事業の好例。

## まとめ

### いいコネワークスとは？



モチーフは北国街道を歩く旅人

宿場町の一つであった牢札宿は、かつて人・モノ・知識が行き交う交通の要衝だった



地域に、つながりが戻りかつての様な賑わいが  
戻るという願いが込められている。



協同組合

いいコネ  
ワークス

ご清聴ありがとうございました。

